# 人の成長に寄り添えるしごと

田中 悠美子

（元福祉学科教員）

## Ⅰ．はじめに

ご無沙汰しております。2023年3月に退職をいたしました田中悠美子です。私は、2018年4月から5年間、コミュニティ福祉学部福祉学科の助教として過ごさせていただきました。退職した立場から執筆させていただける貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。感謝の気持ちと共に、立教大学で過ごした日々を振り返りながら、今の気持ちについて述べさせていただきます。

## Ⅱ．立教大学の学生さんから学んだこと

私は、立教に着任する前は、他の大学で実習業務の助手という立場で勤務をしていました。授業を持つことはなく、業務のほとんどが実習に係る事務や調整でした。受付カウンター越しに、学生の皆さんと実習の状況や将来についてお話をする機会がありました。

立教では、基礎演習や相談援助演習など少人数の授業を中心に教育の経験を持つ機会をいただきました。受付カウンター越しとは異なって、学生と直接対面し、授業を組み立て、進めていく、何を伝えるのか、考えてほしいのかを日々向き合うようになりました。自分自身の未熟さから、授業が十分に成り立っているのか初年度は自問自答することもありましたが、積み重ねていく中で、学生の皆さんの授業でのリアクションや意見交換などから、私自身が得るものが多く、とてもやりがいを感じていました。大変だったけれど振り返れば、学生の皆さんにも助けてもらいながらも、ともに学びあうことの喜びを感じられる、とても至福の時間、かけがえのない時間だったと思っております。

また、授業づくりや学生理解をする際に、助教の先生方の存在はとても大きく、当時、柴崎先生や岡先生、富田先生には大変お世話になりました。

最も学生の皆さんが大きく成長する場面を分かち合えたのは、実習指導の授業を担当したときでした。はじめての現場実習で、緊張や不安を抱えている学生さんを送り出すときは、祈る気持ちでいましたし、実習中の現場巡回や帰校日指導

で大学に帰ってこられるときには、様々な経験を共有し、応援する気持ちで助言をさせていただきました。涙を流して、悔しい気持ちを打ち明けてくれた学生さん、入居者のお年寄りと心のこもった対話をすることができて感動したことを嬉しそうに話す学生さん、クラスメンバー同士で自然と経験を共有し切磋琢磨する姿など、そこには実習前とは別人のような、成長していく学生さんがいました。私は、そういった人が成長していく過程や悩みながらも課題と向き合い、挑戦していく人が好きなんだと感じています。また、そのような場面に立ち会える、寄り添えるという教員の醍醐味を味わうことができました。

## Ⅲ．若者がやりたいことを思い切り挑戦できる社会

私は退職後、ヤングケアラー支援の現場に身を置いています。時代の流れに乗って、国や都道府県での政策にも関わりながら、東京都府中市という地域を基盤に、施策づくりや関係機関のネットワークづくり、個別支援、ピアサポートづくりなどをしております。

一般社団法人の経営者として、また、ソーシャルワーカーとして、研究者として、様々な立場や世代の人たちと共に、とても有意義な時間を過ごしています。ちなみに、立教では兼任講師として、引き続きつながりがあることも大変光栄に思っております。

さて、皆さんは、ヤングケアラーについてご存じですか？言葉は知っているけど、詳しい内容までは知らない人は多いと思います。若くして家族のケアをしている人たちは、とても多様であり、状況にはグラデーションがあります。生活や学業への影響がでて困難を抱えている人もいれば、家族みんなでバランスよくケアを担っている人もいます。お手伝いの延長で多くのケア責任を担っている場合も、自分では気づくことも難しいこともあります。なぜなら……あっ、このまま書いていくと長くなるので……このあとの続きを、もっと知りたい方は、田中を研修講師にお呼びください（笑）。

さてさて、私がお伝えしたいことは、若者がやりたいことを思い切り挑戦できる社会になってほしいと感じているということです。

コロナ感染症の影響で、学生生活がオンライン授業になり、部活動の制限、海外への留学も制限され、悔しい思いをしている人もおられたかと思います。人に会わなくてもいろいろなことが成り立つようなしくみもでき、合理的になってよい部分と、やはり人の表情、人の温もりや関わりがあることの意義について考えさせられることもあります。近年では、先述したヤングケアラーを取り巻く社会

的な課題もありますし、若年女性の自殺の増加もクローズアップされています。就労の問題、孤立・孤独の問題も絡み合っていると思います。

支援が必要な若者と限定化せずに、すべての若者がのびのびと発言し、希望をもって行動していける場や機会を、若者と共に考えていきたいと思っています。新しくできた国の組織に「こどもまんなか」とキャッチフレーズがありますが、私は「若者まんなか」を重視していきたいです。

私自身、介護保険の第2号被保険者の世代に突入しましたが、挑戦することをやめない主義でして、研究も実践も教育も欲深く、死ぬまでドキドキしながら歩んでいきたいわけです。これからも、人の成長に寄り添ったしごとをしていきたいと思います。

## Ⅳ．おわりに

思うがままに記述してきてしまいましたが、改めて、立教での先生方や職員の皆様との出会いは、かけがえのないご縁と感じております。特に、福祉学科の先生、そして、実習指導室の先生方やスタッフの皆様です。実習の新体制を構築する業務はとても大変でしたが、皆さんの支えがあったので進めていくことができました。退職をしてしまったので、今年度の実習体制がどのような状況かとても気になっておりますが、きっと先生方は力を合わせてがんばっておられると思います。どうかお体を大切にお過ごしください。

退職前の3月15日にアカデミックホールで行われた「感謝のつどい」では、湯澤学部長はじめ教職員の皆様が、とても心温まる場をつくっていただきました。私の好きなウイスキーを紹介してくださったクイズに、正解された先生が多くて、とても嬉しかったです。また、いつか一緒に楽しい宴をすることができますように、そして、先生や職員の皆さん、学生の皆さんのご健康とご多幸を願っております。

最後になりますが、お世話になった皆様、これからも新座キャンパスのどこかで、全国各地でお会いできることを楽しみにしております。ありがとうございました。